

# これってどんな意味？仏教のことば

## えんどう 「回向」

秋のお彼岸をはじめ、年中行事の法要では、亡き方のために「回向」をします。

「回向」とは「<sup>めさる</sup>回し向ける」と書く通り、方向を転じて差し向けること。法要で回向は、法要を修めた功德を転じて極楽浄土の亡き方に振り向けることで、阿弥陀さまが亡き方をさとりへと押し進めてくださいます。私たちが亡き大切な方を想い、ねんごろにご回向すれば、極楽浄土にいるあの方も、私たちのことを想い見守ってくれるはずですよ。



## 源昌寺の 今とむかし



大正8年2月頃 源昌寺の様子 開基300年祭の写真

あるお檀家さんから貴重な写真のコピーを頂いたことを思い出しました。左の写真は大正8年（1919年）2月に開催された開基300年祭の様子です。ということは、1619年（元和5年）に源昌寺が開基されたこととなります。由緒には、元和年間（1615～1624年）に源昌寺と寺名を改めたと記されており、史実を裏付ける貴重な写真だと言えます。大正時代は、世界大戦や関東大震災など15年と短いながらも激動の時代だったと言われております。そんな中にもこうして記念祭が行われた。私たちのご先祖さまのたゆまない尽力に頭が下がる思いです。



現在（令和5年）の源昌寺の様子

現在は令和の時代。皆様からの貴重な浄財を積み立て、傷んだ山門や本堂の修復に取り組む準備をしています。

新たな時代へ引き継ぐために。私たちのご先祖が、どんなに大変な時代が訪れようとも、怖じることなく大切に守ってきたこの寺門の法灯。それを守っていくために。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。どの時代にも困難は付き物です。知恵と工夫。そして何よりも皆さまのお力で新たな時代へも繋いでいきましょう。



総代会 古賀文大 さん

## 貪る心と私

「飲み放題コース」と聞いただけで心が躍り、「食べ放題コース」「バイキング料理」が加われば、よだれが際限なく滴り落ち「いざ、予約せん！」と張り切る方はいませんか？

実は、私こそがその「張り切る人」のひとりなのです。時間に制限があるものの、とにかく食べ放題が大好き、飲み放題まるまで天国！おいしい料理を腹いっぱい食べたい、うまい酒を飲み尽くしたい、そのような煩惱にまみれた心、欲望から離れられないのが私なのです。

「いや、それで心身がリフレッシュでき、「コミュニケーションが取れればいいのではないか」「いや、健康によくない」「人生悔いが残らないように腹一杯飲んで食べるべし」「仏道に背く。貪むさぼるな、愚か者」自分の心の中で賛成派と反対派が議論をしますが、いつも賛成派（腹一杯派）が多数を占めるようです。

「我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 従身語意之所生 一切我今皆懺悔」

これは懺悔偈（さんげげ）というお経で、「私が昔より造ってきたところの悪業は、すべて永遠の過去よりの、貪むさぼり、瞋（いかり）、無智（むち）に催されてなした身・語・意から生じたものです。その一切を今、すべて懺悔（さんげ）いたします。」と唱えられています。

私は、毎朝の日常勤行で懺悔偈を唱えて懺悔していますが、また次の日は懺悔しなければいけない煩惱が湧き出てきます。毎日沸き起こる煩惱を消すのは大変難しいものです。だからこそ、煩惱を断ずることより阿弥陀様のご本願を深く信じるお念仏をすることが大切と法然上人が申されたように思います。これからも湧き出る煩惱と戦いながら、お念仏に励みたいと思う今日この頃です。

## 佐賀教区檀信徒大会



10月11日（水）第22回佐賀教区檀信徒大会が5年ぶりに佐賀市文化会館中ホールにて開催されました。オープニングは法灯リレーの上映。源昌寺からは13名参加を頂きました。第1部は養老孟子先生の「私と法然上人」という題で講演を頂きました。浄土の教えは、堅苦しいことは抜きにして「なるようになる」そうお話されていたのが印象的でした。そう、時に身を任せ。ただひたすらにお念仏に励む。そういう法然上人の生き方を象徴されるようなものでした。「なるようにならないう」



そう割り切って考える先には、何か別の未来が待っているような気がいたしました。第2部は、ウクライナ出身のカテリーナさんによるウクライナ民族楽器「バンドウーラ」と歌でした。透き通るような歌声。母国は大変な事態となっていますが、希望を忘れず、決してめげず、ひたすら前向きに進まれるお姿は、心を打たれるものがありました。参加頂いた皆様、ご参加ありがとうございました。